

れいわ ねんど
令和5年度

がっこう じゅんかい こうえん じぎょう
学校巡回公演事業

あなたの街にあります！「茨木市」のオーケストラ
アマービレフィルハーモニー管弦楽団



オーケストラを「知る」
クラシックコンサート

がっこう じゅんかい こうえん じぎょう
— 学校巡回公演事業 —

しょうがっこう ちゅうがっこう とう ぶんかげいじゅつだんたい じつえんげいじゅつ じゅんかいこうえん
小学校・中学校等において、文化芸術団体による実演芸術の巡回公演
おこな こだも しつ たか ぶんかげいじゅつ かんしょう たいげん せikai かくほ
を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保する
ととも、こだも ゆた そうそうりよく そうそうりよく しこうりよく
とともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケー
ション能力などを養い、しょうらい げいじゅつか かんせやくそう いくせい ぶんかげい
将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸
術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、こだも じつえんしどう また かんしょうしどう おこな
ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。
また、実演においては、じつえん こだも せんか くふう おこな
また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



ぶたいげいじゅつとうそうこうしえんじぎょう がっこうじゅんかいこうえん
舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）
どくりつぎょうせいほうじん にほんげいじゅつぶんかしんこうかい
独立行政法人 日本芸術文化振興会



しきしゃ まつおか はかる
指揮者 **松岡 究**

指揮を小林健一郎氏に師事。

1991年 文化庁在外研修員としてブダペストに留学。

2004年～2007年 ローム財団音楽特別研究生としてベルリンにて研修。

1987年～2008年 東京オペラプロデュース指揮者。

2009年～2012年 日本オペレッタ協会音楽監督、東京ユニバーサル・フィル
ハーモニー管弦楽団専任指揮者をそれぞれ歴任。

2012年 東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者就任。

2023年4月よりアマ・ビレフィルハーモニー管弦楽団音楽監督兼常任指揮者。



しきしゃ
指揮者からのメッセージ

オーケストラってどういうものでしょう？それはいろんな楽器からできている集まりのことです。

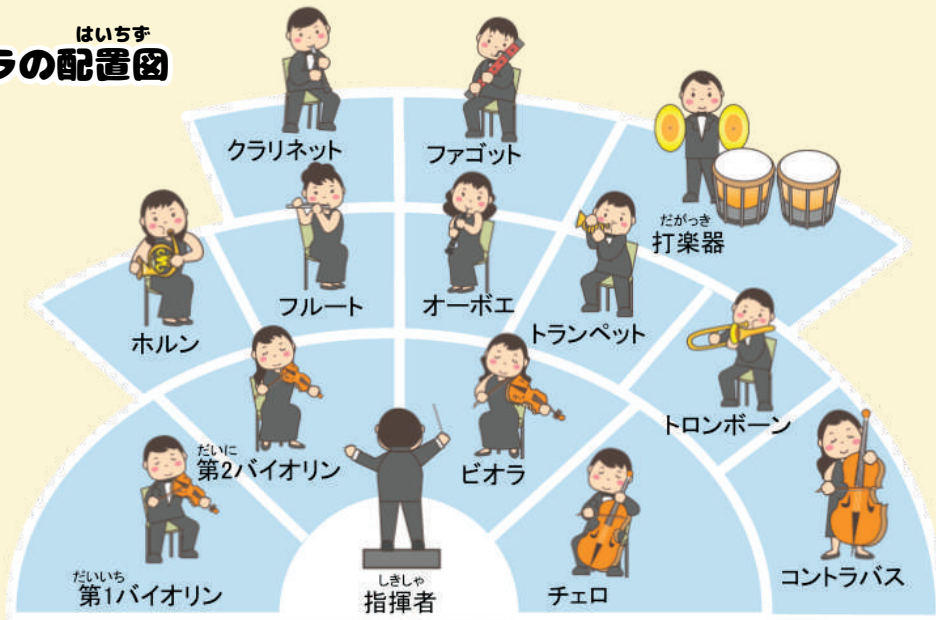
その楽器を味わってみましょう。そのためには料理は口を使って味わいますが、音楽は耳を使って味わってください。

例えば、トランペットはどんな味かな？ヴァイオリンは？するとそれがイタリア料理だったり、ドイツ料理だったりします。

そして目も使って味わってみましょう。オーケストラの人がどんな表情で、どのように演奏しているかな？

指揮者はどのように指揮しているのかな？ワクワクしながらオーケストラを体験してください。

はいちず
オーケストラの配置図



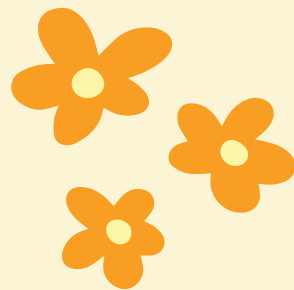
いっばんしゃだんほうじん かんげんがくだん
一般社団法人アマ・ビレフィルハーモニー管弦楽団

当楽団は「若手演奏家にもっと演奏の場を」という思いのもと2015年7月1日に設立。以来、積極的に演奏会を重ね、公演回数は300回を超える。創立5年にして2020年6月に日本オーケストラ連盟に準会員として加入し、地元茨木市に根付いた活動に重点を置きながらも広く演奏活動に取り組む。これまでに「定期演奏会」13回、「コンチェルトシリーズ」19回、「サロンコンサートシリーズ」178回、その他「ファミリーコンサート」や茨木市を中心とした幼稚園や保育園、学校などの教育機関への有償訪問公演、外部からの依頼公演などを実施している。また2020年より楽団YouTubeアカウントから積極的に演奏動画を発信しており、若手演奏家の演奏機会創出や、広い世代へのクラシック音楽の振興、より広く楽団を周知する活動等に努めている。





プログラム



すいじょう おんがく だい くみきよく じょきよく
水上の音楽 第2組曲 より 序曲
ヘンデル

シンプルシンフォニー より だい がくしやう 第4楽章
ブリテン

こうきやうきよくだい ばん うんめい だい がくしやう
交響曲第5番「運命」より 第1楽章
ベートーヴェン

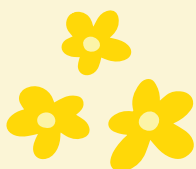


【リズムの効果体感コーナー】

かんげんがくくみきよく だい ばん だい きよく つか
管弦楽組曲第3番 第2曲「アリア」を使って
バッハ（編曲：小野江良太）

【指揮者体験コーナー】

すいじょう おんがく だい くみきよく つか
水上の音楽 第2組曲 より「アラ・ホーンパイプ」を使って
ヘンデル（編曲：小野江良太）



おんがく くみきよく
バレエ音楽「プルチネルラ組曲」
ストラヴィンスキー

- i. シンフォニー
- iii. スケルツォ～アレグレット～アンダンティーノ
- iv. タランテラ
- v. トッカータ
- vii. ヴィーヴォ
- viii. メヌエット～フィナーレ

【校歌をオーケストラと歌おう！】

【終演後→ヴァイオリン体験コーナー】





ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル
(1685-1759)

水上の音楽 第2組曲 より 序曲

向かいあって吹かれるキラキラ光る金管楽器の音色。まるで川の水面でキラキラかがやく光のようです。ドイツで生まれたヘンデルはイギリスのロンドンにやってきて、舟がすきな王様のためにこの曲を書きました。ロンドンのまちを流れるテムズ川で優雅に舟に乗ってあらわれ王様のようすが目にうかびます。



ベンジャミン・ブリテン
(1913-1976)

シンプル・シンフォニー より 第4楽章

シンプルという名前からも想像されるように、この曲には素朴な美しさがあります。イギリスの作曲家ブリテンは、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの弦楽器のためにこの曲を書きました。弦楽器の音色はあたたかく、炎のようにも熱く響きます。ピッチカートという弦をはじいて演奏する方法がつかわれています。



ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
(1770-1827)

交響曲第5番「運命」より 第1楽章

ドイツからウィーンにやってきたベートーヴェンは、管・弦・打楽器からなるオーケストラのためにこの曲を書きました。曲が始まってすぐの「タタタ・ターン」というメロディーが心にとります。ドキドキしながら扉をノックしているのでしょうか。このメロディーは、扉をひらく「運命」の音のしるしとして知られています。作曲家ベートーヴェンには、扉の向こうに何がみえたのでしょうか。



リズムの効果体験コーナー

ヨハン・セバスチアン・バッハ
(1685-1750)

管弦楽組曲第3番 第2曲「アリア」

バッハは教会で演奏されるような音楽のほかにも、ドイツでたくさんのオーケストラ曲を書きました。この曲もそのひとつです。このアリアは、おもに弦楽器によって演奏されます。うすい布が重ねられているかのような弦楽器の静かな音色に、まず耳をかたむけてみましょう。



指揮者体験コーナー

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル
(1685-1759)

水上の音楽 第2組曲 より 「アラ・ホーンパイプ」

アラ・ホーンパイプという言葉には、動物の角の形をした木管楽器風という意味があります。いきいきとした3拍子のダンス曲として書かれています。オーケストラのさまざまな楽器が奏でる、やわらかく華やかな響きに包まれるようです。



イーゴル・ストラヴィンスキー
(1882-1971)

バレエ音楽「プルチネルラ組曲」

ストラヴィンスキーはバレエのための音楽をたくさん書いた作曲家です。ストラヴィンスキーが生きた19世紀のロシアでは、ダンス、劇、音楽、絵などのあらゆる芸術が組みあわせてバレエがさかんに演じられていました。プルチネルラとは、若い男の名前です。ピンピネルラという名前の女のひと、仲良くなるまでの物語が、8曲のバレエ音楽で表現されます。プルチネルラとピンピネルラは、17世紀のイタリアで人気があった、仮面をつけて行われる劇で登場するキャラクターです。

